

山口県建設技術センター

この情報誌は土木技術に関する様々な情報を山口県及び市町の土木技術職員の皆様方に提供するものです。

情報誌 Vol. 63

発行：一般財団法人 山口県建設技術センター 発行日：平成31年1月7日

森ヶ原第2トンネル貫通(平成30年11月撮影)



県道岩国大竹線(森ヶ原バイパス)整備事業について
被災地派遣職員レポート
技術アドバイザー派遣支援について
センター研修の紹介～橋梁設計・維持管理研修～

県道岩国大竹線(森ヶ原バイパス)整備事業について

県道岩国大竹線は、岩国市街地の外郭を形成する環状道路として重要な路線であり、山陽自動車道の岩国ICや山陽新幹線のJR新岩国駅等へのアクセス道路としても重要な役割を担っています。

しかしながら、森ヶ原地区の現道においては、交通量が多いにもかかわらず、道路幅員が狭くすれ違いが困難な箇所や鉄道路線との交差により高さ制限が必要な箇所があるなどの課題を抱えています。

このため、県では現道の課題解消などを目的とした森ヶ原バイパスの整備を進めています。

このたび、森ヶ原第2トンネルが貫通したことから(表紙写真)、山口県岩国土木建築事務所のご協力をいただき、現況報告の特集を組むことができました。



現状の課題



事業概要

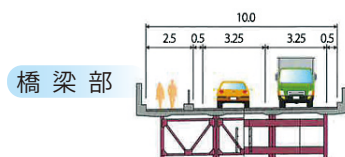
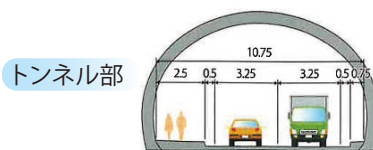
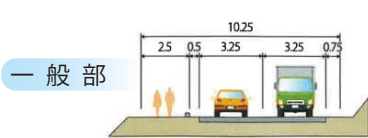
【事業概要】

事業箇所 岩国市森ヶ原
 延長 L=1,680m
 幅員 W=6.5(10.25)m
 事業着手 平成24年度

【整備効果】

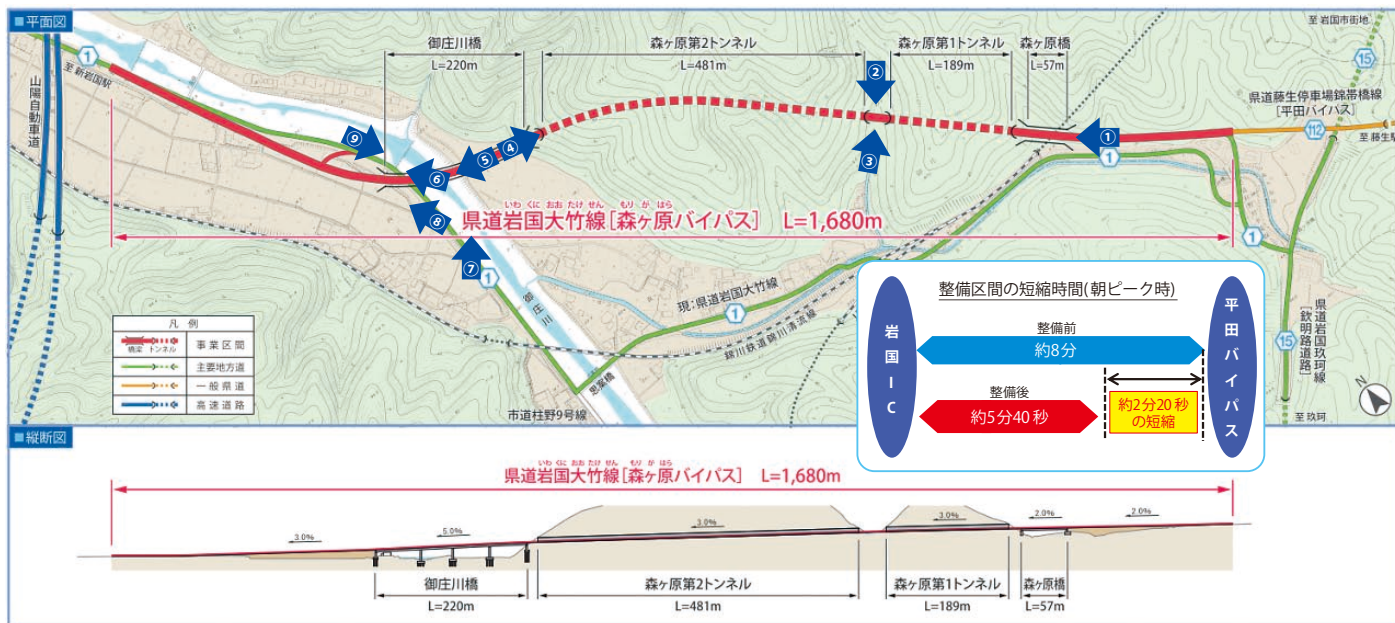
- 岩国錦帯橋空港へのアクセス強化
- JR新岩国駅、岩国ICへの連絡強化
- 岩国市街地の慢性的な渋滞の緩和
- 現道の事故減少および渋滞緩和

【標準断面】



(一財)山口県建設技術センターでは、トンネル等主要構造物に関する設計図書作成業務など、さまざまな面で支援させていただきました。また、研修面においては、現場研修でたびたびお世話になっています。





現況(平成30年12月現在)



岩国土木建築事務所より

当現場は「コンクリートの品質・耐久性確保」に関する現場研修に多く活用させていただいていることに加えて、「会いに行ける工事現場」として多くの人に見学してもらい、見られることで構造物の品質を向上させる取り組みを行っています。往復約3kmの現場を見学いただければ日頃の運動不足解消にもなりますので、気軽に声をかけてください。少人数でも対応します。

被災地派遣職員レポート

平成28年4月に熊本県で発生した「平成28年（2016年）熊本地震」は、熊本県熊本地方で最大震度7を観測し、社会基盤に甚大な被害をもたらしました。被災直後から全国の自治体職員やボランティア等による復旧・復興支援が行われており、山口県内からも多くの方が支援業務等に参加されたことと思います。

このたび、熊本県上益城郡御船町にて公共土木施設の災害復旧支援業務（地方自治法に基づく中長期派遣）に従事された、山口県技術管理課の中村主査のご協力により、被災地派遣職員レポートを掲載することができました。

派遣職員の役割や仕事の内容等について知っていただき、今後の業務に少しでも役立てて頂ければ幸いです。

質問
1

自己紹介をお願いします。

山口県土木建築部技術管理課の中村好希です。九州生まれ山口県育ちの42歳の漢です。趣味は音楽鑑賞と読書です。若いころは九州男児だったので、熊本地震が起きた瞬間から熊本行きを決心していました。



質問
2

ご自身の派遣期間や他の自治体職員など、派遣体制を教えてください。

私は、熊本県上益城郡御船町に、平成29年4月から平成30年6月までの1年3ヵ月間派遣されました。同町には、私と同じく平成29年4月より山口県内の市職員が3名派遣されており、それぞれ、下関市の職員が1年間、岩国市の職員が3ヵ月間、萩市の職員が2ヵ月間の派遣期間で、最盛期は4人で御船町に元気を注入してきました。

質問
3

派遣の主な役割(仕事)は？

派遣職員の主な仕事は、査定設計書の実単更正と他機関との調整でした。災害件数が約380件もあったので、市から派遣された若い(?)精鋭職員達が実単更正を担当し、私は河川協議、重変協議等、他機関との調整を担当しました。調整相手は、ほとんどが熊本県河川課でしたが、国土交通省熊本河川国道事務所やNEXCO西日本との調整もありました。



重変協議で苦勞した橋梁災

質問
4

他機関との調整について教えてください。

県(熊本県河川課)との重変協議を約20件、国(熊本河川国道事務所)との河川協議(橋梁災)を6件、橋梁災の補償工事で九電、NTT、QT-net等と協定や仮移設計書の調整を行いました。中でも、橋梁(写真の橋)の下部工工事を国に委託する調整が大変でした。査定で決まった工法の変更や工期に全く余裕がない中での非出水期施工の厳守(5月以降河川内の作業絶対禁止)など、厳しい条件を提示されたため、その対策と対応にかなりの労力を費やしました。



愛車♡と私

質問
5

休日はどうのように過ごされていましたか？

休日は、サイクリングとスタバカフェで時間を過ごしました。愛車(自転車)と自分、スタバと自分に酔っていました。

質問
6

最後に、派遣期間を通しての感想をお聞かせください。

御船町は、土木の技術職員が少ないうえにほぼ災害未経験でしたので、災害経験豊富な私は大いに活躍できたと自負しています。これも、これまで山口県で培った知識と経験があったからこそ成し得たことだと思います。そして、何をやっていいのかわからない不安になっている御船町職員に、「何とかなる大丈夫!」と声をかけながら「安心と勇気」を与えつつ、みんなで前向きに災害復旧を進めることができ、精神的にも成長できたと思います。他県という普段とは違う環境でいろいろな仕事に携わり、仕事がついつい時期はありましたが、それ以上に得るものは大きく、苦勞した現場が完成し地元の方々に感謝されること、また自分も復旧復興の一翼を担っていると実感できることは土木技術者冥利に尽きるものがありました。また、振り返ると熊本で1年3ヵ月、仕事やプライベートにと熊本にすっかり馴染んだ自分がいました。

武士に生まれてきた以上は、海を渡って自分の力を試すべきです。若い土木職員の皆さん! やりがいは十分あるので、災害派遣の話があれば、怖がらず果敢に挑戦してみてください!

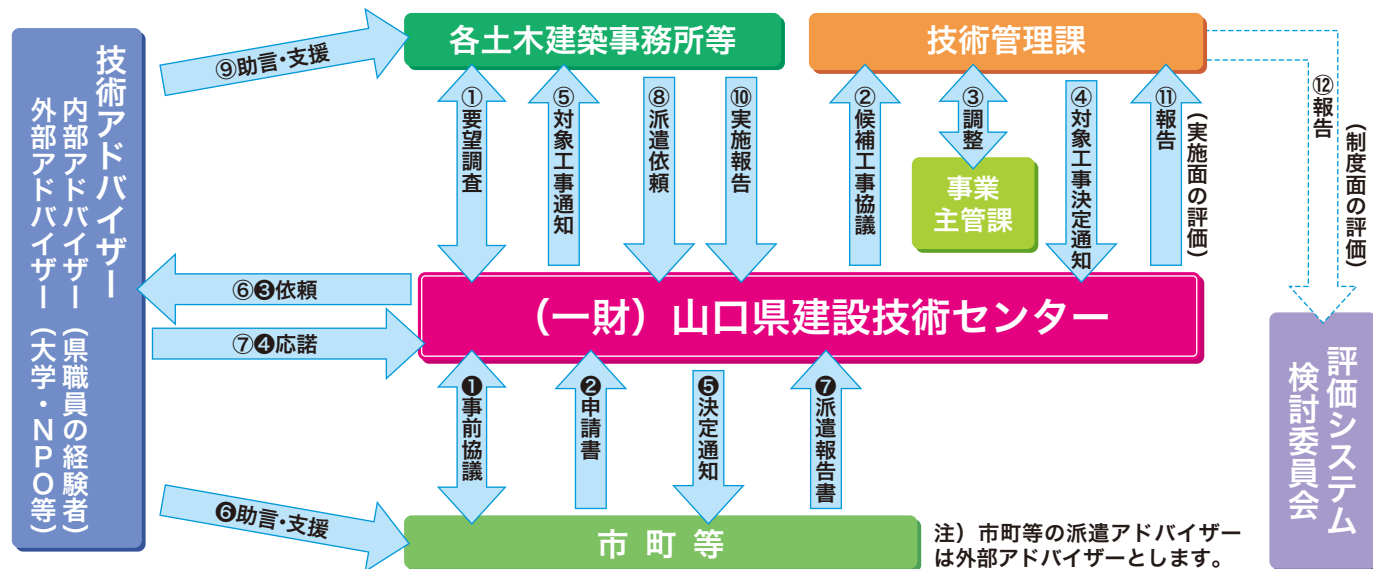
技術アドバイザー派遣支援について

みなさんは、技術アドバイザーをご存知でしょうか？技術アドバイザーとは、事業実施にあたり実施頻度が少なく技術的経験の伝承が困難な8工種（橋梁、トンネル、地盤基礎、下水処理、建設環境、法面・斜面、ダム、コンクリート）について、高度化する発注者の責務を果たすために、担当者に助言及び支援を行う学識経験者等のことです。

技術アドバイザーには、類似の経験を有する県職員で構成される内部アドバイザーと、大学等の学識経験者で構成される外部アドバイザーの2種類があります。ちなみに、現時点で内部アドバイザーが51名、外部アドバイザーが28名（山口大学、徳山高専、水産大学校等）です。

（一財）山口県建設技術センターでは、技術アドバイザーの取組が迅速・円滑に実施されるよう、『技術アドバイザー派遣支援制度』を設けており、アドバイザーの選定や派遣依頼等を行う業務（技術アドバイザー派遣業務）を行っていますのでご紹介します。

業務の流れは、以下のフロー図のとおりです。また、近年の支援実績を表に示しています。近年では市町の実績もありますので参考としていただき、事業実施にあたる技術的判断等にこの制度を活用していただければと思います。



外部アドバイザーが派遣された場合の派遣費用（謝金及び旅費）については、（一財）山口県建設技術センターが全額支援します。



年度末に翌年度の派遣支援対象工事の要望調査を行っていますので、その際に支援希望の有無について回答をお願いします。また、年度途中での要望についても随時対応していますので、お気軽にセンターまで連絡を頂ければと思います。

近年の活用実績



年度	県・市町	工種	助言・支援の対象	アドバイザー情報
H29	県	建設環境	魚道の改修	水産大学校 准教授
	市	橋梁	橋梁補修・補強	山口大学大学院 教授
	市	法面・斜面	地すべり対策	山口大学大学院 教授
	県	ダム	ダム管理・点検	山口大学大学院 教授
H30	県	橋梁/コンクリート	橋脚の補修	山口大学 名誉教授
	県	建設環境	魚道の改修	水産大学校 准教授
	県	建設環境	魚道の改修	水産大学校 准教授
	県	橋梁/コンクリート	橋脚の補修	山口大学 名誉教授
	県	建設環境	海岸浸食対策	山口大学大学院 教授
	市	法面・斜面	斜面災害復旧	山口大学大学院 教授
	市	法面・斜面	地すべり対策	山口大学大学院 教授

※平成30年度分は、編集時点の実績です。

○アドバイザー活用後のコメント

- ✓ 工法選定資料の作成にあたり、技術的知識・経験に基づく指導・助言の支援をいただき、事業の円滑な執行を図ることができた。
- ✓ 調査結果の整理に関して、技術アドバイザーの指導により、新たな知見で結果が整理できた。

センター研修の紹介～橋梁設計・維持管理研修～

橋梁の多くは高度経済成長期に建設されていることから、建設後50年を経過し老朽化した橋梁は、大規模な補修や架替が一時期に集中することが懸念されています。そのため、今後の維持管理については、事後保全型から予防保全型の維持管理に転換することで、限られた予算のなかで計画的・効果的に橋梁の長寿命化を図っていくことが求められています。また、5年に1回の近接目視による定期点検が義務付けられたことも踏まえ、橋梁の長寿命化を図るためには、適切にメンテナンスサイクル（点検→診断→措置→記録）を実行する必要があります。

このような背景を踏まえ、（一財）山口県建設技術センターでは、橋梁のメンテナンスサイクル実行に必要な知識や技能について、実践的に学べる研修を行っていますので、紹介します。

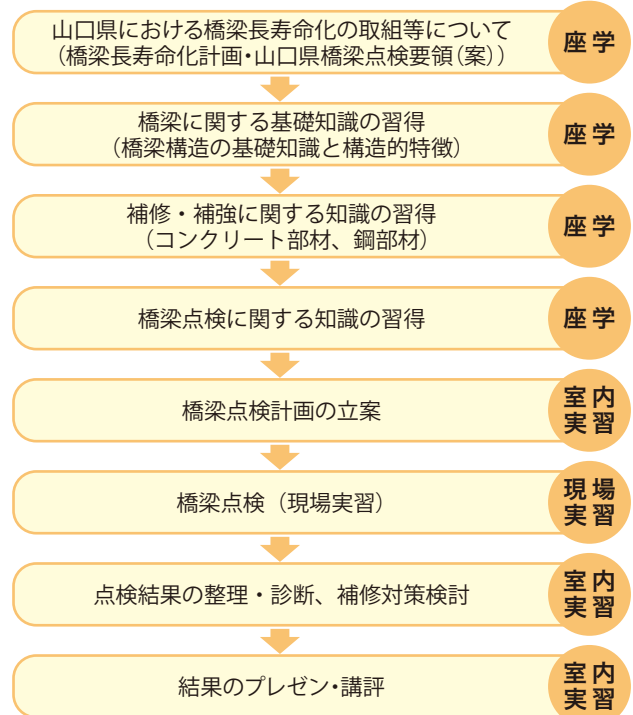
（公益目的事業）橋梁設計・維持管理研修

橋梁設計・維持管理研修は、橋梁に関する基礎知識から維持管理に至るまでの一連を段階的に学べるような科目設定をしています。

具体的には、まず、橋梁設計や補修・補強に関する知識を習得したうえで、橋梁点検実習に移ります。橋梁点検実習では、座学で学んだ知識を活かし、点検計画から点検実施、点検結果の整理診断に加えて対策工の検討までを実践的に行います。現場実習を行うことで、点検時の着眼点や損傷区分の判定などについてより具体的に学ぶことができ、好評を得ている研修です。

今後は、職員点検の機会が増えると思われるので、積極的な参加をお待ちしております。

なお、当研修は全3日間の日程で、座学の翌週に現場実習を実施しています。



研修風景



○アンケートに寄せられたご意見

- ✓現場実習を行い、実際に自分で判定してみることで、点検の流れがよくわかった。
- ✓百聞は一見にしかず。現場実習は、非常に為になった。実習は、点検に携わる全職員が受けたら良いと感じた。

編集後記

寒さが身に染みる時期になりました。センターの窓から外を眺めると、辺り一面に落ち葉の絨毯が広がり、何とも言えない風情を醸し出しています。今年7月に豪雨が発生しました。不幸にして災害に見舞われた地域では、災害査定への対応等、大変忙しい毎日をご過ごされていることと思います。その影響(?)か、今年度は研修参加者が少ないように思います。研修参加者のV字回復を図るべく、センターとしては参加して良かったと思えるような研修を行いたいと考えています。研修時のアンケート等で皆さんの率直なご意見を寄せて頂きたいと思っております。

【Eメール】 info@yama-ctc.or.jp
【ホームページ】 <http://www.yama-ctc.or.jp>

〒753-0073 山口市春日町8-3春日山庁舎
一般財団法人 山口県建設技術センター
情報誌編集委員会 宛
【TEL】 083-920-1233
【FAX】 083-920-1288